

## 令和8年度 佐倉市リチウムイオン電池拠点回収試行概要（案）

## 1. 背景

日本製メーカーのリチウムイオン電池のうち、膨張・劣化していないものは電気店などで回収しています。インターネットなどで購入したものや海外製のもの、膨張・劣化したものは廃棄物対策課にて回収しています。市民からは回収拠点増設の要望が多数寄せられ、特に市役所本庁舎のある佐倉地区以外での出張所等で回収して欲しいとの声が大きいです。

回収したリチウムイオン電池からは、少し数が溜まると異臭がします。これは可燃性のガスが出ていると考えられ、発火・爆発の可能性があります。そこで廃棄物対策課においては、蓋をすることにより発火・爆発のリスクがなくなる金属ペール缶にて5年前よりカウンター回収を実施しており、無事故です。

民間ではKDDI、ローソンなどが共同でコンビニでの回収実験を開始しました。実験に使う回収ボックスは下に衝撃吸収シートを敷き、温度センサーや通信機器を備え、常時モニターできるものとなっています。

通常の手配りの中での発火の危険性について、消防組合とともに令和7年11月10日（月）リチウムイオン電池の発火実験を実施しました。その結果、リチウムイオン電池は、たやすく発火するものではありませんでしたが、充電率が高いまま出されてしまった電池についてのみ、通常ありえないような大きな衝撃や鋭利なゴミと混ざり、衝撃で電池に刺さってしまった場合などに発火してしまう可能性があるという結果でした。

## 2. 事業概要

佐倉市役所本庁舎（廃棄物対策課）の立地している佐倉地区以外において人口の多い志津、臼井、根郷地区それぞれにおける出張所において、回収ボックス（金属ペール缶）を設置し、リチウムイオン電池を資源物としてリサイクルに供するため回収します。それぞれの出張所職員への手渡しによるカウンター回収とします。

併せて、佐倉市八街市酒々井町消防組合へ施設内における拠点回収協力をお願いしており、現在消防組合にて調整中です。

## 3. 回収ボックス（金属ペール缶）のイメージ、大きさ

下記のような回収ボックスの中にクッション材を入れたボックスとする。



大きさ

直径 30 cm 高さ 37 cm

#### 4. 回収品目

日本製メーカーのリチウムイオン電池であり、かつ膨張・劣化していないものは、J B R C（一般社団法人 Japan Portable Rechargeable Battery Recycling Center）に加盟している電気店など（参考参照）で回収しております。

今回回収品目となるのは、J B R Cにおいて回収できないリチウムイオン電池、モバイルバッテリー及びリチウムイオン電池内蔵小型家電とします。

**【参考：佐倉市内J B R C加盟回収協力店 令和7年12月1日現在】**

ミスターマックスセレクトユーカリヒルズ店（イオンユーカリ内）、DCM志津店、小澤電機（中志津）、ベシア電機佐倉店、DCM染井野店、岡本電機（江原）、イオン白井（レイクピア）、ロイヤルホームセンター佐倉店、あさひサイクルベース勝田台店（井野）、あさひサイクルベース佐倉店

#### 5. 試行期間

令和8年4月1日（水）～令和9年3月31日（水）

※令和9年度以降については、大きな事故等なく、また前年度で抽出された問題点等を解決した上で、回収個所の増減を含め、審議会へ諮り、令和9年4月1日（月）から本格実施する予定です。

#### 6. 回収運搬・中間処理・リサイクル概要

- ① 志津、白井、根郷出張所それぞれの職員により、カウンターでの手渡しにてリチウムイオン電池等を回収します。
- ② 各出張所からの連絡により随時、市職員ないし直営作業員がリチウムイオン電池等を佐倉市、酒々井町清掃組合へ持っていきます。
- ③ 佐倉市、酒々井町清掃組合において、リサイクルに供するものと残渣になるものを手選別します。リサイクルに供するものについては、清掃組合経由にてリサイクル業者へ渡されます。残渣になるものについては、2週間ほど水につけ、埋め立て処分を行います。

※消防組合における拠点回収の概要が確定次第、運搬方法について協議します。

#### 7. 広報

- ・こうほう佐倉 4月1日号、5月1日号
- ・佐倉市HP掲載
- ・佐倉市広報番組にて放映（予）